

開催地名	熊本県荒尾市
開催日時	令和7年8月3日(日) 15:00 ~ 16:30
開催場所	荒尾総合文化センター
語り部	竹原 茂(広島県三原市)
参加者	荒尾市防災士会 約 60名
開催経緯	近年、地震や台風、豪雨などの自然災害が全国各地で多発しており、地域住民一人ひとりの防災意識の向上が求められている。 こうした状況を受けて、地域の防災体制の強化や日頃の備えの重要性について再認識してもらいたい。
内容	<p><b>① 三原市の災害リスクと歴史的背景</b></p> <p>三原市は埋立地が多く、古くから水害のリスクが高い地理的特徴を持っている。 過去の地図と現在の浸水想定区域がほぼ一致しており、南海トラフ地震による津波や液状化の危険性も指摘されている。</p> <p><b>② 平成30年7月豪雨の教訓</b></p> <p>平成30年7月豪雨では、河川の氾濫や土砂災害により甚大な被害が発生しました。 被災者への聞き取り調査から、ハザードマップを見ていなかったり、「自分は大丈夫」という思い込みがあったりと、避難行動の遅れが課題であったことが明らかになった。 また、大雨特別警報が発令される前に、すでに21名の方が亡くなっていたという事実が、早期避難の重要性を示している。</p> <p><b>③ 三原市防災ネットワークの多角的な活動</b></p> <p>芸予地震をきっかけに設立された「三原市防災ネットワーク」は、行政、ボランティア、防災士、メディアなど多様な団体が連携し、以下の活動を行っている。</p> <p>●<b>マイタイムラインの普及</b>: 市民一人ひとりが避難のタイミングと行動を決めておく「マイタイムライン」の作成を推進している。</p>

	<p>●<b>情報発信</b>: ケーブルテレビやFM ラジオと連携し、災害時にリアルタイムで河川の水位などの地域に密着した情報を提供している。</p> <p>●<b>地域との連携</b>: 小中学校と合同で防災キャンプを実施したり、住民参加型のハザードマップ作りを行ったりするなど、地域全体での防災力向上を目指す。</p> <p>●<b>要配慮者支援</b>: アレルギーを持つ人のための食品表示や、個別避難計画の策定支援など、きめ細やかな取り組みも行っている。</p> <p>④ <b>今後の課題</b></p> <p>防災で最も大切なのは「<b>無関心をなくすこと</b>」。</p> <p>平時から地域、行政、専門家が顔の見える関係を築き、連携して「備える」ことが、自分と周りの人々の命を守ることに繋がる。</p> <p>今後は人口減少や高齢化による担い手不足という課題に対し、地域全体で取り組んでいく必要がある。</p> 
開催地より	<p>三原市の地理的状況や歴史背景から、「三原市防災ネットワーク」の設立、活動内容など話し方も丁寧でわかりやすかったとの受講者からも好評でした。また、竹原先生のご親族が実際に被災したとの話は当時の緊迫した状況が伝わり、改めて災害の怖さを実感しました。「三原市防災ネットワーク」の組織間のつながりが広く、顔の見える関係ができているからこそできる平常時や災害時の活動を、荒尾市防災士会でも個人や組織間との連携体制構築のために参考にしていきたいと思えます。</p>